

遺贈

故人の思いを社会に生かす

【特集チーム】編集委員：神野武美、早瀬昇、増田宏幸、村岡正司、百瀬真友美

【協力】公益財団法人京都地域創造基金
山北洋二（一般社団法人全国レガシーギフト協会理事）



日本ライトハウス情報文化センター

元大阪市立大学教授、永井浩次氏とご遺族から大阪市西区と東区の所有地計729平方メートルの寄贈を受けて、1978年、大阪市西区に建設された社会福祉法人日本ライトハウス・情報文化センター。右の写真は2009年に改築された現在の建物。永井氏の願いであった視覚障害者の情報と文化の振興に、役割を果たし続けている（社会福祉法人日本ライトハウス提供）



「遺贈」という形の社会貢献が注目を集めている。本特集では、その背景や、遺贈の事例と基本的な注意点、遺贈が広がるうえでの課題などを取り上げた。下の写真は、故人の思いが遺贈という手法で後世に生き続けている事業の例である。そして遺贈はもちろん、こうしたスケールの大きな事業だけではなく、数多くの限定的な寄付や現物寄贈も、幅広い活動の中に生かされている。故人の思いが社会に生かされるためには、遺贈の理解を広げることも必要だし、市民団体の側が遺贈に関する相談対応力を高める必要もあるだろう。「地域を支える活動に遺産を生かしたい」という遺志の受け皿に、市民団体がよりなっていくことを願う。

千葉県松戸市の約1.1ヘクタールの関家屋敷林は、江戸時代の名主である関家が1995年の相続時に、公益財団法人埼玉県生態系保護協会に寄付した森。「子どもの森」として開放していた父・関武夫氏の遺志を継ぎ、市民団体「関さんの森を育む会」が、維持管理と森に親しむ活動などを行っている（公益財団法人埼玉県生態系保護協会提供）



関さんの森

朝ドラ的

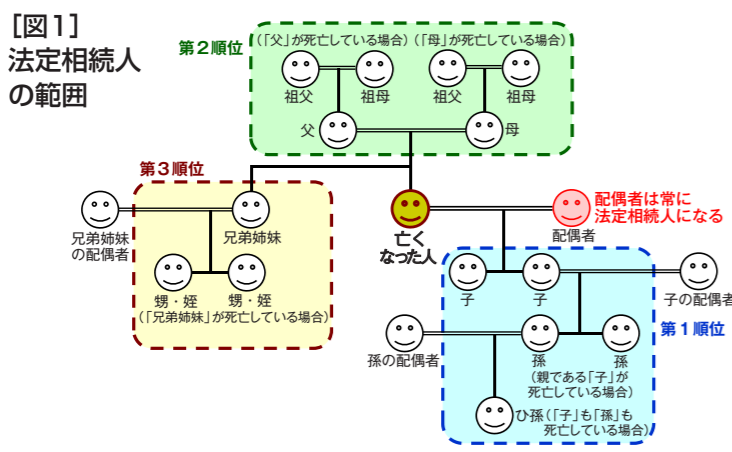
あさと新次郎の遺贈談義

あさ 最近、イソウが話題になっているね。
新次郎 イソウって、維新の志士の？
あさ それは人斬りと言われた岡田以蔵でしょう。私が言ってるのは「遺贈」。亡くなった後の財産、遺産を贈る話よ。

新次郎 ああ、相続のことね。
あさ 遺産は通常、法定相続人に相続されるけど、法定相続人以外に「遺贈」することもできる。個人だけでなく、NPOなど法人にも財産を贈れるの。

の結婚式の際に会っただけ……ということだっただけからね。
あさ そうでしょう。遺産って人生の集大成のようなものだから、こだわりも強くなるわよね。
また、たとえば未婚の一人っ子で子どもがおらず、かつ父母や祖父母も亡くなっている場合、法定相続人がいないから遺産も国庫に納められることになるわけね。でも国に納められた財産がどう活かされるかよく分からない。それよりも、自分の思いを託せるNPOなどに寄付をして活かしてもらいたいという人も多いと思うの。

されだしたんだろう？
あさ いろんな要因がありそうなの。一つは、結婚しない人が増えていることの影響。図2の「生涯未婚率（注3）の推移」を見て。
新次郎 1990年代から急に未婚率が増えだしてるね。
あさ 結婚しない人が増える子どもが増えない人も増えるでしょう。そうすると、法定相続人が大して交流のなかった甥や姪になつたりするケースが増えるのよ。



あさ 民法で定められた相続財産を引き継ぐ権利がある人のこと。といって、その立場によって相続の順位が決まっているの。
配偶者には常に相続権があつて、他の親族は、その立場で三つに分かれる。その順序で配偶者と共に相続人になる。まず第1順位は子どもなど。この第1順位にあたる人が誰もいない場合、配偶者と第2順位の父母などが相続権を持つ。第1順位の人も第2順位の人もいない場合、第3順位の兄弟や姉妹なども相続権を持つわけ（図一）。でも、だんだん縁遠くなるでしょう。
新次郎 そうだよ。甥姪だと、親戚

新次郎 ホウテイソウゾクニン？ 何、それ？
あさ 民法で定められた相続財産を引き継ぐ権利がある人のこと。といって、その立場によって相続の順位が決まっているの。
配偶者には常に相続権があつて、他の親族は、その立場で三つに分かれる。その順序で配偶者と共に相続人になる。まず第1順位は子どもなど。この第1順位にあたる人が誰もいない場合、配偶者と第2順位の父母などが相続権を持つ。第1順位の人も第2順位の人もいない場合、第3順位の兄弟や姉妹なども相続権を持つわけ（図一）。でも、だんだん縁遠くなるでしょう。
新次郎 そうだよ。甥姪だと、親戚

「遺贈」が注目されはじめた背景
新次郎 でも、なぜ最近、遺贈が注目の結婚式の際に会っただけ……ということだっただけからね。
あさ そうでしょう。遺産って人生の集大成のようなものだから、こだわりも強くなるわよね。
また、たとえば未婚の一人っ子で子どもがおらず、かつ父母や祖父母も亡くなっている場合、法定相続人がいないから遺産も国庫に納められることになるわけね。でも国に納められた財産がどう活かされるかよく分からない。それよりも、自分の思いを託せるNPOなどに寄付をして活かしてもらいたいという人も多いと思うの。
新次郎 なるほど。NPOの存在もよく知られるようになったからね。
あさ 公式の統計はないけれど、NPOへの遺贈がかなり増えているの。あしなが育英会では10年前の3倍、5年前の2倍に増え、日本盲導犬協会でも3年前の1.9倍、国境なき医師団でも3年前の3倍に増えている（注1）そうよ。
また、日本ファンドレイジング協会の調査では、「遺産の一部を寄付しても良い」という人が21%もいるということだわ（注2）。

遺贈について聞きました①

「図書館資料充実基金」の場合

大阪府八尾市に住み2014年8月に死去した東千恵子さんは独り身で相続人もいなかった。12年6月、「長年、図書館や移動図書館を頻りに利用させてもらったので、図書の実用のために使った」と、司法書士や信託銀行と協議して公正証書を作成し約1億3000万円を市に包括遺贈した。実際は、手続き費用などを差し引いた約1億2000万円が遺贈され、市は15年7月に「図書館資料充実基金」を設立。毎年、市内4カ所の市立図書館や44小中学校が計約600万円の図書を購入している。遺贈した財産の多くは株式で、信託銀行による売却に時間がかかり、手続き完了までに約1年かかったという。（神野）

（注1）遺贈寄付推進会議編「遺贈寄付ハンドブック」2016年、日本ファンドレイジング協会。
（注2）日本ファンドレイジング協会編「寄付白書2011」2012年、日本経団連出版。
（注3）50歳時点で一度も結婚していない人の割合。図2は国勢調査をもとに、45〜49歳と50〜54歳の未婚率の平均を示している。

私のいちばん長い日

第17回

2003年9月11日、私のいちばん長い日である。という、2001年9月11日のニューヨーク同時多発テロを思い浮かべる方が多いと思うが、その日は私たちが雑誌『ビッグイシュー日本』を創刊し、路上で発売した初日だった。

ビッグイシュー、1冊いかがですか

「あのときは、本当に困った……」「あの一言で、救われた……」「あのアイデアが、出発点だった……」市民活動を続けていく中には、曲がり角や分岐点もあれば、大きく飛躍した記念すべき一日も……。市民活動家たちの忘れられない「私のいちばん長い日」とは!?



佐野 章二
有限会社ビッグイシュー日本 共同代表

1941年、大阪生まれ。大学、都市計画事務所勤務を経て、1980年都市地域プランナーとして独立、事務所を設ける。2003年5月有限会社ビッグイシュー日本を設立、共同代表就任。2007年9月NPO法人ビッグイシュー日本を創設、理事長就任。趣味は音楽（クラシックとジャズ）を聴くこと。

『ビッグイシュー日本』はホームレスの人しか売れない、彼らの仕事づくりを目的として制作された雑誌だ。定価200円（現在350円）の雑誌を売ると、その半分以上の110円（現在180円）が彼らの収入となり、それを積み重ね自立への道を歩んでもらう仕組みである。

仕組みに感動し、大阪でも発行したいとその場で半ば約束をしてきた。その日以来1年間、副編集長の佐野未来、私の3人は創刊のため毎日10時から23時まで働き続けた。雑誌制作だけでも、資料収集、アイデア会議、雑誌のコンセプト、年間24本の特集企画、表紙や誌面デザイン案のミニコンペ、ライター・デザイナーの募集・面接、見本誌作成、広告、資金集めなどの仕事があった。

この他、難航したのは路上販売に関する警察との交渉、そして最も予測不可能だったのは販売希望者が集まるかどうかであった。釜ヶ崎での最初の販売説明会に来た人は12人、登録者はわずか4人であった。発売日までの登録者は33人、当日集まったのは20人だった。一番心配だったのが、道行く市民がホームレスの人の所にわざわざ近寄って買ってくれるかどうかである。発売日の前夜、私は道行く人が素通りしてゆく夢にうなざれたことを覚えている。

もう一つの大きな心配は、その年の9月9日以降に阪神が勝てば18年ぶりのリーグ優勝が決定するという状況だった。もしそうなれば大阪の町は大騒ぎでビッグイシュー誌の販売どころではなくなる。幸いにも15日に優勝が決まり、11日には優勝を待ちかねる全国から集まった2ヶタのメデイアが私たちの販売開始風景を取材してくれた。

9月11日（木）は晴天。午前8時にJR大阪駅前東口広場でロンドンから英国版編集長ジョン・バードも参加して起業式を行い、販売を始めた。その日の販売冊数は560冊。1人平均23冊、多い人は60冊を売った。販売者の中には、『ビッグイシュー』1冊いかがですか」と言い間違える人もいた。販売に不慣れなAさんの売り上げは20冊、その晩、「久しぶりにドヤ（簡易宿泊所）で寝られた」。「青カン（野宿）は身体にきついんです」と、2日目は34冊を売った。この日、フジテレビの「トクだね!」が密着取材。また、

この日は、ビッグイシューに興味をもった編集長の水越洋子が英国・グラスゴーを訪れ、ビッグイシュー・スコットランド版の代表メル・ヤングに会い、発行の可能性についてインタビューしてからちょうど1年後でもあった。水越はビッグイシューというホームレス支援の

この他、難航したのは路上販売に関する警察との交渉、そして最も予測不可能だったのは販売希望者が集まるかどうかであった。釜ヶ崎での最初の販売説明会に来た人は

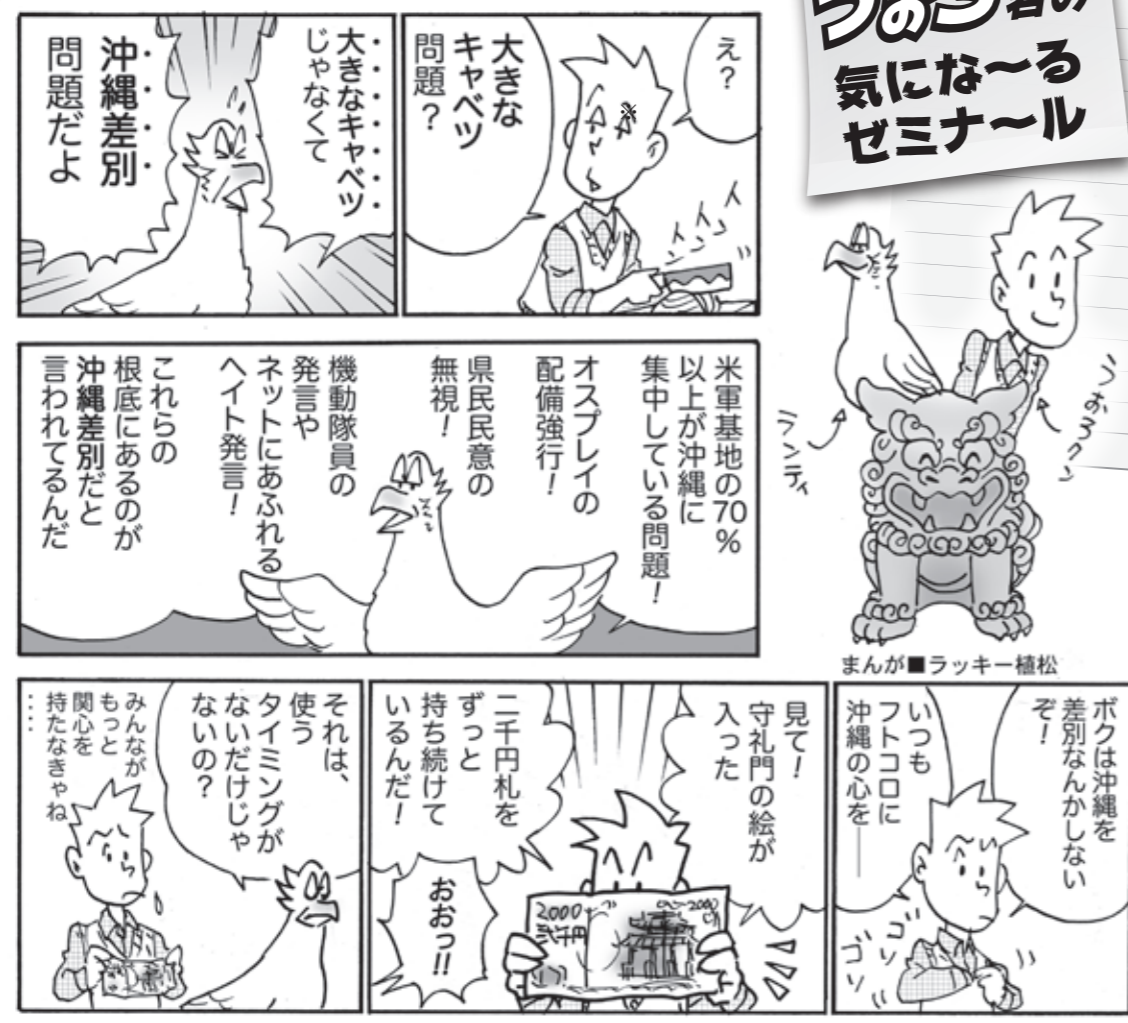
その年の9月9日以降に阪神が勝てば18年ぶりのリーグ優勝が決定するという状況だった。もしそうなれば大阪の町は大騒ぎでビッグイシュー誌の販売どころではなくなる。幸いにも15日に優勝が決まり、11日には優勝を待ちかねる全国から集まった2ヶタのメデイ

アが私たちの販売開始風景を取材してくれた。9月11日（木）は晴天。午前8時にJR大阪駅前東口広場でロンドンから英国版編集長ジョン・バードも参加して起業式を行い、販売を始めた。その日の販売冊数は560冊。1人平均23冊、多い人は60冊を売った。販売者の中には、『ビッグイシュー』1冊いかがですか」と言い間違える人もいた。販売に不慣れなAさんの売り上げは20冊、その晩、「久しぶりにドヤ（簡易宿泊所）で寝られた」。「青カン（野宿）は身体にきついんです」と、2日目は34冊を売った。この日、フジテレビの「トクだね!」が密着取材。また、

この日があって、2016年12月1日、市民メディアとしてのビッグイシュー誌は300号（累計753万冊、販売者への提供収入11億1450万円）を発行することができた。

うおろ君の気になるセミナー

Vol.92 「沖縄差別」って何?



まんが ■ ラッキー 植松

も

とも独立国家であった琉球王国を強制的に日本国に組み込んだ1879年の「琉球処分」にはじまり、アジア太平洋戦争下では、沖縄が本土防衛の捨て石とされ、一般住民も巻き込んだ地上戦で県民の4人に1人が犠牲となった。1903年には沖縄やアジアの国の人々などを見世物にした、「人類館事件」なども起きている。このような歴史的な経過に加え、近年は別の角度からの「沖縄差別」ともいえる現象が目立っている。日本にある米軍専用施設の約70%が、全国の面積の1%にも満たない沖縄に集中していることは象徴的だが、それらはかつては本土にあったものが、周辺住民の反対運動等で移転してきたものも多い。しかし、基地反対の沖縄の民意は、選挙結果などで何度も示されているが無視され続けている。危険性が指摘される米軍機オスプレイの配備についても、本土では地元が拒否すると政府は断念するが、沖縄への配備は強行するような、政治上の「差別」も露骨であるように感じる。沖縄住民に対し「土人」発言をして問題になった大阪府警の機動隊員は20代だったが、昨今ネット上に氾濫する沖縄に対する根拠のない差別的ヘイト論も、若い世代に影響を与えはじめています。「基地は日本の安全のため必要。でも自分の地域に来るのは嫌だ。沖縄に置き続けるのは仕方ない」。本土に住む私たちに、そういう感覚はないだろうか。沖縄に関する問題を考える上で、歴史的・政治的な視点に加え、私たちの意識の中にも含めた、構造的かつ無意識な「沖縄差別」について、もう一度、見つめ直してみることが必要ではないだろうか。

編集委員 大門 秀幸

ウオロ・バインダー、いかがでしょうか?

VOLO osakavol

ウオロ2年分(12冊)を挟み込めるバインダーです。(ウオロ1冊500円+送料250円)お問い合わせはウオロ編集部 / volo@osakavol.orgまで

～市民視点のドキュメンタリー映画を紹介する

『歴史の教訓に学ばない民族は、結局は自滅の道を歩むしかない』
林えいだいの言葉より

「いいたくない、いわない。表面に出ない隠れた部分こそ、問題なのだ」
 毆殺したその男は、後々も周囲から冷たい視線を浴びせられ、苦しんだという。男の奥深い部分には朝鮮人に対する差別意識があった。そこを追求する林えいだいの言葉に目をそらすとしていた自分

がいることに気づき、動揺してしまつたのだ。
 林は1933年福岡県に生まれた。早稲田大学中退後、故郷に戻り、北九州市役所に勤務。しかし、公害として社会問題になっていた八幡製鉄の問題に、公務員でありながら取り組んだことにより辞職する。以降、カメラとペンをもち、記録作家の道を歩み続けている。冒頭に書いた信念のもと、林の視線は常に歴史の影に隠れた人々に向き、そこに潜む差別意識と闘う姿勢を貫いた。
 映画では、林の父・寅治の死にも触れられている。神主であった寅治は、過酷な炭鉱労働から脱走した朝鮮人を匿った罪で特高警察に捕まり、のちにその時の拷問の傷によって亡くなった。命に換え

てまで朝鮮人を庇おうとした父親が、なぜ国賊・非国民扱いされ、死ななければならなかったのか。その強い思いが彼の記録作家活動の原点になった。
 記録映画を作る私もこの映画には学ぶことがとても多い。足尾銅山のルポを書いた際の回想シーンでは、当時の農民たちが鉱毒問題の請願のため、群馬から東京まで歩いたことを受け、林もまた同じ場所を歩いたという。彼らと同じ苦しみを感ずるために、実体験を通じて考えるという姿勢は、記録者としてまだまだ未熟な自分を叱咤されているようで恥ずかしい気持ちになった。
 林は現在、悪性のがんに侵されながらも、指にペンを持ちセロハンテープを巻いて固定して、執筆し続けている。抗がん剤治療をやめ、命に換えてまでも記録しようとするものはいったい何なのか。ぜひ機会を見つけて劇場でこの映画を見て欲しいと願う。



シアター・イメージフォーラム(渋谷区、2017年2月)
第七藝術劇場(大阪市、2017年3月～)
その他順次全国上映予定
http://aragai-info.net/screening/index1.html
制作・配給:グループ現代 / 製作・著作:RKB毎日放送
監督:西嶋真司 / 2016年 / カラー / 100分 / 日本 / ドキュメンタリー

今月の作品 「抗い」 記録作家 林えいだい



●今月の館主 今井 友樹

イラスト: 杉浦 健
 1979年岐阜県生まれ。記録映画「鳥の道を越えて」の監督。民族文化映像研究所の姫田忠義の元で映像記録のノウハウを学ぶ。日本各地の芸能や民俗など暮らしを映像で記録する活動に従事。現在も新作に向けて全国を駆け回っている。「鳥の道を越えて」の自主上映を受け付け中。問合せ:工房ギャレット(電話 090-7226-3806)



教室を利用した工房では革細工の製造が行われていた



取材当日のランチは豚肉の野菜巻きと蒸し寿司を中心に。950円

里山工房くもべ
兵庫県篠山市西本荘西ノ山2-1
営業日時 金～月・祝日11:00～16:00
TEL 079-556-2570



昔懐かしい小学校の姿がそのまま保存されている。地域を見守ってきた校舎を残そうと、住民たちが働きかけた



カフェでは若いスタッフが働いている

兵庫篠山市の城下町(市街地)から東へ車で約20分。田んぼに囲まれたのどかな場所にカフェ&アトリエ「里山工房くもべ」はある。
 約350世帯、人口9000人の「篠山市雲部地区」にただ一つあった雲部小学校が統廃合によって閉校になったのは、2010年のこと。長年地域を見守ってきた小学校がなくなれば、ますます高齢化・過疎化が進んでしまう。「再び、地域のにぎわいを」をスローガンに、自治会などの地域団体や市役所の元職員、生産者からなる「くもべまちづくり協議会」が地域に校舎の保存を働きかけた。その後、校舎を地元住民の拠点として活用するために、同協議会の一部門として13年に「合同会社里山工房くもべ」を設立、現在も施設の運営に当たっ

ている。
 旧校舎のレイアウトはそのままに、職員室だった部屋は「ミニティカフェ」に、校長室は「農産品直売所」に生まれ変わった。そして六つあった各教室を「アトリエ」として開放、革製品や丹波木綿の機織りなど、市内で活動するものづくりの作家が、それぞれ個性を生かした物品の製造販売やワークショップを行っている。
 「目的は交流を深めること。ここがその拠点になれば、新たにいろんなことができます」と、里山工房くもべ代表社員の今井進さんは語る。自ら雲部地区の自治会長も経験してきた「地元の人」だ。「ここから始まって、地域で農業体験ツアーや夜桜カフェなどさまざまなイベントを進めています。若手農家が集まるしかけもつくりたいですね」
 安心・安全な食材を使ったカフェランチは週替わり。ドライブがてらランチを楽しむ若者や親子連れの姿も見られるようになった。近隣の小学校からは社会見学に訪れる子どもたちも。
 「くもべができて、再び人が集まるしかけができてつあります」(今井さん)。
 編集委員 杉浦 健



世界はもっと美しくなる
 奈良少年刑務所詩集
 寮美千子 / 編、受刑者 / 詩、ロクリン社、2016年 1600円+税



写真集 美しい刑務所
 明治の名煉瓦建築 奈良少年刑務所
 寮美千子 / 文、上條道夫 / 写真、西日本出版社、2016年 1800円+税

2016年10月に国の重要文化財への指定が決まった奈良少年刑務所(旧奈良監獄)は1908年、政府が刑事施設の近代化を目指した煉瓦造りの「明治五大監獄」の中で唯一の現役

である。2017年3月に閉鎖され、ホテルへの転用話が浮上しているが、地元住民とはスポーツなど様々な交流があり、珍しく住民に愛された刑務所であった。保存運動を行ってきた「奈良少

年刑務所を宝に思う会」の会長は、設計者山下啓次郎を祖父に持つジャズピアニスト、山下洋輔さんだ。
 泉鏡花文学賞を受賞した奈良在住の作家、寮美千子さんは、9年間、「社会性涵養プログラム」として、刑務所内でも特に「厄介者」だった計186人を相手に朗読劇を行ったり詩を書いてもらったりする月1回1時間半、6カ月間の授業を担当した。その姿勢は、「できない」と言う人には「それでもいいよ」と容認するもので、詩の出来栄も一切評価しない。注意は「人の発言をさえぎらない」ことだけ。「思い込み」という詩が載っている。10年前に同刑務所の外側に来て「中は無法

地帯だろう」と思ったが、自分が入ったら「そうでもなかった」というもの。寮さんも最初は「怖かった」。しかし、人から認めてもらった経験がない彼らも、「心の鎖を脱ぎさえすればやさしさが溢れている」と思うようになった。
 写真集は、建築や歴史遺産の専門家の評価だけでなく、更生教育に関わった僧侶や弁護士などの篤志面接委員、職業訓練の外部講師に加え、地元自治会長、住民、元受刑者らが「あたたかい刑務所」や「みんなの刑務所」について語っている。108年の伝統に育まれた心を通わせる場としての存在意義こそ遺されるべきではないのか。
 編集委員 神野 武美



幸せになる勇気—自己啓発の源流「アドラー」の教えII
 岸見一郎・古賀史健 / 著、ダイヤモンド社、2016年 1500円+税

本書は、「人間の悩みはすべて対人関係の悩みである」と断言するアルフレッド・アドラーの考え方をわかりやすく解説した「嫌われる勇気」の続編である。設定も前作同様、ひとりの青年が哲人との問答を通して学びを深めていくというもの。

前回哲人と問答してから3年、教師として働く青年が再び哲人の書齋を訪ねるところから始まる。実際の教育現場に触れ、「褒めてはいけない、叱ってもいけない」というアドラーの教えを忠実に実践したところ、教室が荒れてしまったというのだ。これに対し、哲人は、問題行動の五つの段階(称賛の欲求、注目喚起、権力争い、復讐、無能の証明)を説明しながら教育の目標は「自立」であると説く。そのためには生徒に対して「尊

敬」の念を抱くことも必要である。本書は、全体を通して教育をテーマに語られているが、市民活動の現場でも参考になる部分が多い。その一つが「共同体感覚」ではないだろうか。強さや順位を競い合う競争原理は、おのずと「縦の関係」に行き着き、勝者と敗者が生まれ、上下関係を生み出しやすくなる。一方、アドラー心理学が提唱する「横の関係」を貫くのは、協力原理である。「他者と

の間に知識や経験、また能力の違いがあってもかまわない。学業の成績、仕事の成果に関係なく、すべての人は対等であり、他者と協力することにこそ共同体を作る意味がある」と。
 物事を考える時によく陥りがちな「悪いあの人」「かわいそうなわたし」という二元的な見方から脱却し、「これからどうするか」を共に考えることこそが、新たな社会の創造には必要なのではないだろうか。
 編集委員 垂井 加寿恵



アートで
市民活動
Vol.5



マチ・ヒト・ココロを元気にする
Community Art

のりっば —町内会から“町内外会”へ— (宮城県仙台市)

《特集》

遺贈 — 故人の思いを社会に生かす

《東日本大震災・仙台発～現地から伝える「被災地の今」》 ⑬
高齢者を孤立させない
大久保 朝江 (特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる 代表理事)

《ソシオロジックフォーカス～社会学の視点で世相を深読み》 ⑭
純粋な赦しとは？
岡崎 宏樹 (神戸学院大学教授)

《実録・市民活動「私のいちばん長い日」》 ⑮
ビッグシチュー、1冊いかがですか
佐野 章二 (有限会社ビッグシチュー-日本 共同代表)

《うろ君の気にな～るゼミナール》 ⑯
「沖縄差別」って？

《V時評》 ⑰
1. NGO 規制が示唆する世界
2. 制定後が正念場 休眠預金活用法

《マーケティングは愛だーNPOのための入門講座》 ⑱
マーケティング施策を立案する！
長浜 洋二 (株式会社PubliCo (パブリコ) 代表取締役 CEO)

《現場は語る ～コーディネートの現場から》 ⑳
特別養護老人ホーム等で取り組む地域活動
—地域住民との協働のあり方を考える
齊藤 裕三 (高齢者総合福祉施設神の園 施設長)

《市民活動の暦 (こよみ) ～2月、3月にあったこと》 ㉒
70年前……「京都少年保護学生連盟」結成

《この人に》 ㉓
石川 梵さん (写真家、ノンフィクション作家)

《アゴラ/シネマ/ライブラリー》 ㉔
「里山工房くもべ」/『抗い 記録作家 林えいだい』/
書籍紹介

《アートで市民活動—マチ・ヒト・ココロを元気にする Community Art》 ㉙
のりっば
—町内会から“町内外会”へ
小川 直人 (せんだいメディアテーク)



おがわ なおと
小川 直人

葉も仕組みも、もうどこか古めかしいものになってしまったのかもしれない。しかし一方で、アートが媒介するおもしろい町内会活動が動き出した。その名も「のりっば」。「斜面(のり面)」「のりっば」。「空き地」(はらっぱ)「だから」のりっば」。仙台市

近年マスメディアでも取り上げられているように「町内会」は全国的に危機であるらしい。ここ仙台では、東日本大震災を機にあらためて日頃から近所づきあいや地域活動の重要性が取りざたされたものの、「仙台市町内会等実態調査報告書(仙台市/2015年)」によれば、役員の高齢化や担い手不足に悩む町内会は多く、町内会の解散も課題となっている。もしかしたら、そもそも「町内会」という言葉

中心部に古くから位置する住宅地・片平地区大手町を拠点とする活動である。都市計画道路が廃止になった公用地の管理運営を、地区の町内会やPTAなどが組織間の垣根を越えてつくったまちづくり団体が引き受け、そのなかでも特に使いにくい斜面を、アートイベントや子どもの遊び場など、さまざまなしかりを通して使おうという試みだ。町内にあるギャラリーのオーナーやそこに集うアートや建築関係の人々、引越してきてきた行政職員などが中心となって2016年に「のりっば部会準備会」として立ち上がった。

昔から住む人々のそんな思いと、新たな住民としての若手の思いが重なった結果、生まれたといえる。住宅地の一角であり、文字どおり斜めに傾いた土地だけに使い方は難しいが、ヤギを連れてきての草むしりにはじまり、子どもの遊び場として開放したり、斜面を客席に見立てて舞踏の公演や現代アートに関するドキュメンタリーの上映会をやってみたりと、さまざまなことを試みている。

一定の人口増に恵まれる都市がそうであるように、最近の仙台の中心部では、空いた土地があれば駐車場がマンションになっていく。しかしこの公用地は、もともとまちづくりのために行政へ託した土地。新たな公共の場にするには、できないだろうか——のりっばは、

大きな予算を投じて有名なアーティストを呼ぶわけでも、派手なイベントをするわけでもない。行政が遊休地を勝手に手放し、そこに住む人々と外の人々がゆるやかに集まって知恵を出し合うことで生まれたこの活動には、これからの町内会、あるいは、町内外会、ともいえる新たなコミュニティの萌芽を見ることができよう。

editor's note

- ◎発行者 牧里 每治
- ◎編集者 永井 美佳
- ◎編集委員長 増田 宏幸
- ◎編集委員 浅野 信之、磯辺 康子、稲田 千紘、鶴岡 健生、大島 一晃、小笠原 慶彰、影浦 弘司、工藤 宏司、久保 友美、芝崎 美世子、神野 武美、杉浦 健、大門 秀幸、竹内 友章、垂井 加寿恵、千葉 有紀子、筒井 のり子
- 新聞社勤務
- グラフィックデザイナー
- ライター
- 大学院生
- 大阪ボランティア協会職員
- 場とつながりの研究センター
- 神戸女子大学教員
- 大阪ボランティア協会職員
- 大阪府立大学教員
- ボランティア・市民活動ライブラリー館長
- 創作サポートセンター
- フリージャーナリスト
- 共働プラットフォーム
- 自治体職員
- ウォロ編集委員
- 神戸学院大学
- 印刷会社勤務・写真家
- 龍谷大学教員

- 永井 美佳 大阪ボランティア協会事務局長
- 中田 万葉 大学生
- 華房 ひろ子 ライフコーチ
- 早瀬 昇 大阪ボランティア協会常務理事
- 牧口 明 社会福祉士
- 村岡 正司 (特活) ヒューマン・ビジョンの会
- 百瀬 真友美 編集ラボ・ハンドレッド
- 山中 大輔 団体職員
- 山野 瞳 会社員
- 山本 佳史 市民社会ドゥタンク代表
- 李 顕 大阪ボランティア協会会員
- ◎事務局 影浦 弘司、編集ラボ・ハンドレッド
- ◎デザイン/DTP ADOアサノデザインオフィス
- ◎校正 村岡正司
- ◎発送協力 トミの会 / 元久の会 / 梅田 茂 / 岸田 和弘 / 中野 伊津子 / 福満 奈都 / 吉中 広子
- ◎制作・編集 大阪ボランティア協会「ウォロ」編集部

- 広告掲載のお申し込み、記事内容について [TEL] 06-6809-4903 [FAX] 06-6809-4902 [E-mail] volo@osakavol.org 担当/ウォロ編集部
- 購読のお申込み、定期購読の宛先変更 [TEL] 06-6809-4903 [FAX] 06-6809-4902 [E-mail] books@osakavol.org 担当/岡村豊子
- 定期購読のご案内 (2016年4月から) 1年間 (6冊) 3,000円 (送料、税込)



*本誌の発行費用の一部は大阪府共同募金会の助成を受けています。

編集後記

◆遺贈特集、なんといっても相続に関わる法制度が、それはそれは難解でした。スタバで何時間ご指導くださった監修の江波千佳税理士に深く感謝いたします。次号の特集テーマは「働く場としてのNPO(仮)」。まずは自分の労働環境を何とかしないと。(百)

ウォロ (Volo) 2・3月号 / 通巻511号
2017年2月1日発行

- ◎発行所 社会福祉法人 大阪ボランティア協会 〒540-0012 大阪市中央区谷町2丁目2-20 2F 市民活動スクエア CANVAS 谷町
- ◎印刷所 デジタル総合印刷株式会社 本誌掲載記事の無断転載を禁じます。 ◎社会福祉法人 大阪ボランティア協会